

8月22日（水）13：30／14－306・307・308教室

07発－22－ポ－28

## 東アジア人女子における初経遅延評価システムの構築

○都築 修平(愛知工業大学大学院経営情報科学研究科)、藤井 勝紀(愛知工業大学大学院経営情報科学研究科)、  
石垣 享(愛知県立芸術大学)、伊藤 幹(愛知工業大学)

本研究は東アジア人女子の身長 MPV 年齢に対する初経年齢の回帰評価によって東アジア人女子における初経遅延評価から、民族間での初経遅延の違いを検証しようというものである。対象は日本人女子209名、韓国女子232名を合わせた441名であり民族的な差異があった。資料として小学1年から高校2年までの身長の縦断的発育データ、生年月日、初経年齢を解析に使用した。個々の身長の縦断的データに対しウェーブレット補間法を適用し、導きだされた速度曲線から身長 MPV 年齢を特定した。民族的な差異のある、身長 MPV 年齢及び初経年齢を解析に利用するためには、両属性の正規性の検定を行う必要がある。正規性の検定の結果、身長 MPV 年齢、初経年齢ともに正規性が認められ統計的には民族的差異による問題は消去されたと考えられる。よって身長 MPV 年齢に対する初経年齢の回帰多項式を1次から4次まで構成し、AIC から回帰式の次数の妥当性の検証をおこなったところ、一次多項式回帰の妥当性が認められた。よって、一次多項式回帰評価チャートを構築し判定による頻度分布の妥当性が認められた。

8月22日（水）13：30／14－306・307・308教室

07発－22－ポ－29

## 児童期における生活パターンの分類の試み

○中野 貴博(名古屋学院大学)、春日 晃章(岐阜大学)、村瀬 智彦(愛知大学)

〔目的〕現代の子ども達の生活習慣には様々なパターン（型）が存在することが考えられる。良好型、運動不足型、あるいは夜型生活や食事に問題を抱える型など、いくつかのパターンに分類することが出来ると思われる。これらの分類を明確にし、個別に抱える問題を選択的に改善すれば、これまで以上に効果的な生活習慣改善が可能になると思われる。そこで、本研究では、統計的手法を用いて子ども達の生活習慣をパターン別に分類することを目的とした。〔方法〕対象は児童5810名であり、子どもと保護者の総合的な生活習慣調査を実施した。本発表では、この内、運動・栄養・休養に関連する24項目を分析対象とした。対象項目に欠損のない5119名のデータを対象に分析を行った。生活習慣パターンの分類にはk-means法による非階層的クラスター分析を用いた。〔結果と考察〕非階層的クラスター分析においては、クラスター数を3～6個に変化させて、得られた結果の解釈をもとに、最終的に4つの生活習慣パターンに分類できると判断した。4つのクラスターは、それぞれ特徴を有し、より詳細な分析を追加することで、生活パターンごとに選択的な生活習慣改善が可能になると思われる。

8月22日（水）13：30／14－306・307・308教室

07発－22－ポ－30

## 神奈川県海老名市の子どもの生活習慣に関する調査・研究

○山合 洋人(東海大学大学院)、林田 峻也(東海大学大学院)、岩田 大輝(東海大学大学院)、  
上野優香里(東海大学大学院)、忽滑谷祐介(東海大学大学院)、小澤 治夫(東海大学体育学部)、  
内田 匡輔(東海大学体育学部)、松本 秀夫(東海大学体育学部)

近年、子どもの生活習慣は悪化しており、社会的な問題となっている。その要因として、携帯電話やテレビ、ゲームなどの長時間の使用による睡眠時間の減少や、外遊びの機会の減少、歩数の減少などによる身体活動量の低下が挙げられる。このような状況に鑑み、海老名市教育委員会と東海大学体育学部小澤研究室は教育研究提携を結び、『学びあい・思いやり・元気なえびなっ子プラン』を推進している。このプランでは基本的生活習慣の定着を目標としており、各種調査、体育授業への介入、啓発活動等を行っている。本研究では、神奈川県海老名市立の小・中学校（小学校13校、中学校6校）に通学している児童・生徒、それぞれ10,431名（平成22年）、10,533名（平成23年）を対象に、現在の体調や起床時刻、朝食の喫食状況等の生活習慣に関する質問紙調査を行った。学校ごとに調査内容を比較したところ、平成22年、23年共に、海老名市教育委員会が研究対象校として選定した3校（小学校2校、中学校1校）において、「いらいらする」「頭が痛い」などの不定愁訴を訴える児童・生徒の割合が減少した。また、「いつも元気だ」と回答する児童・生徒の割合は増加した。